

ふきたのさと 吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目-8-28.705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6338-1107 中村小夜子
会長/小田忠文 年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 振込先/00980-3-28845
ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/古谷啓伸

今後の予定

あलック吹田散策	吉志部コース	3月 1日(土)	5頁
春の七草 観察と試食	メダカの田んぼ	3月 9日(日)	1頁
会報誌29号の原稿締切り	投書・投稿歓迎	3月20日(木)	14頁
有馬富士ヘバスツアー	参加申込受付中	3月29日(土)	5頁
あलック吹田散策	千里立コース	4月 5日(土)	5頁
	会報誌29号を宅配	5月 5日頃		

第4回総会

5月17日(土)

市民会館 大集会室

13時から

正会員の方で欠席される場合は、委任状の提出をお願いします。

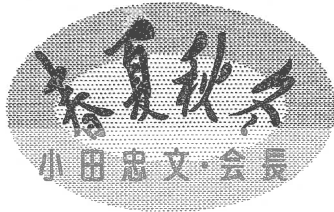
委任状と討議資料はつぎの会報誌をお届けするときに同封します。

2003年度理事・監事の候補受付

2月末まで 1頁

理事会

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。日時の変更の場合がありますのでお問い合わせください。



昨年、縁あつて北方四島の択捉島に行った。

そこではシャケ

が川を上りヒグマがそれを餌とする50年から100年以上前の北海道の姿がそのまま残っていた。▲海岸線には護岸工事など人の手の跡は全くない。人家の密集地ですら川の堤防は土のまま、木造の橋は人のみが渡り、車は川の中を渡る状況だ。▲ここに住む子どもたちは不便さを訴えていなかった。みごとに自然と共生しているのだ。日本からの発電設備も利用さ

れていないとのこと。▲私たちの生活でただ便利さのみを追求することを考え直す必要性を感じた。このままの生活を続けていていいのだろうか。▲この択捉島でふと吹田操車場跡地のことを考えてしまった。跡地には何もせず、強いてするなら子どもたちに植樹をしてもらおう。利用方法は本日生まれた赤ちゃんが50歳になって市長になったとき考えていただく。こうすることが吹田の自然を破壊しつくした現在の市民ができる唯一の罪ほろぼしではないだろうか。

☆☆☆☆☆☆ 「春の七草」観察会及び試食会の案内 ☆☆☆☆☆☆☆

「春の七草・秋の七草」は03年度より本調査を開始する予定でしたが、都合により03年度も予備調査を兼ねた観察会をすることとしました。

次回はピオトップ委員会・生き物委員会の共同で「春の七草」観察会+試食会を計画しましたので、植物に興味のある方や、何でも食べてみようという食欲旺盛の方の参加をお待ちしています。

日時 3月9日(日) 10時30分~14時

場所 観察+採取 メダカの田んぼ(岸部北5丁目、名神高速道路釈迦が池北東側)
料理+試食会 山三公民館

持ち物 汚れてよい靴、手拭い、エプロン、お箸、筆記用具など

参加費 500円

講師 武田義明さん(本会顧問、神戸大学助教授)

募集人員 20名(先着順)

申込先 中村小夜子(電話090-8375-0647、FAX6319-0630)

Eメール k-kaigi@clubaa.com)

追記 小雨決行(担当者が当日現地で決定)

理事・監事の立候補、推薦を受け付けます

理事の役割 理事会を構成し会の定款の定め及び理事会の決議に基づき、会の業務を執行する。

監事の役割 理事の業務執行の状況を監査する。会の財産の状況の状況を監査する。

任期 2年(2003年度総会から2005年度総会まで)

理事会に出席できること。(原則として毎月第3土曜日午後)

推薦の場合は事前に本人の承諾を得てください。

立候補及び推薦する人は氏名、住所、電話番号を明記のうえ事務局まで郵送またはFAXまたは電子メールで事務局(中村)までお願いします。受付期間は2月末日までとします。

鎮守の森調査について

平 軍二 (生き物委員会)

すいた市民環境会議は、*社叢学会より吹田市内の神社 20 社についての「鎮守の森調査」を受託し、03 年 1 月末完了に向け、現地の森調査・聞き取り調査の両面から調査中である。

1. 調査概要

- ・ 調査の目的 吹田市内の神社 20 ヶ所の鎮守の森調査 (全国 6 都市で実施する調査の一環)
- ・ 調査箇所 愛宕社……………山田上、佐井寺、下新田、山の谷、原、片山、岸部、垂水の 8 社
その他神社……………山田伊射奈岐神社、佐井寺伊射奈岐神社、素盞鳴尊神社、垂水神社、稲荷神社、片山神社、高浜神社、千里丘稲荷神社、泉殿宮、春日神社、吉志部神社、古江稲荷神社の 12 社
- ・ 調査期間 02 年 11 月～03 年 1 月
- ・ 調査内容 鎮守の森について、植生・景観・空間形成・歴史的経過・神事や祭事・運営や地域とのかかわりについて、現地調査と聞き取りの両面から調査
- ・ 調査担当 鎮守の森ということで、生き物委員会中心の調査チームを編成
*社叢学会……………社叢を対象に植物学・生態学・建築学・文化人類学など諸学の垣根を開き、地域に密着した新しい学問の創造と、社叢の保存をめざして設立された新しい学会 (理事長は上田正昭氏)

2. 調査状況

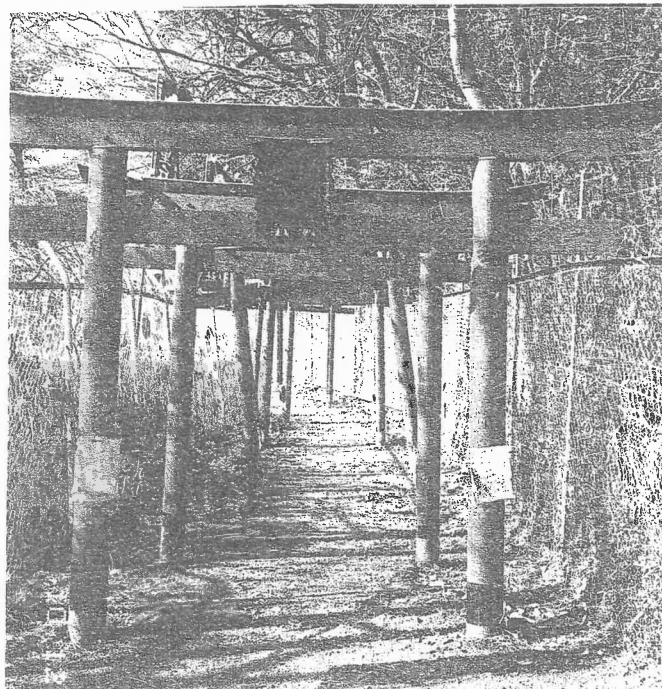
短期間での調査となったことから、調査は主に平日に活動できる人を中心に 3 つの調査チームを作り調査中で、

11 月	森の現地調査
12 月～1 月	聞き取り調査
1 月	集約作業中

と、ほぼ予定通り進捗している。

生き物委員会としては、鎮守の森 (= 樹木に関する) 部分はともかく、神社の歴史的経過や祭事・神事に関する聞き取りなど、今まで経験していない新たな分野に足を踏み入れることとなり、下記熱田さんの感想文にあるような調査の醍醐味を味わっている。

(朱塗りの鳥居が 200m 続く千里丘稲荷神社の参道)



鎮守の森調査の感想

熱田 克子 (五月が丘)

社叢学会から鎮守の森調査依頼があり、神社、愛宕社を含め 20 社を調査中です。

神社はもともと「村の鎮守の神さまの」と唱歌に歌われたように、日常生活の中に溶け込んでいる存在でした。調査していて分かったことですが、鎮守の森は変化しながら現在の形に様変わりしているようです。例えば、神社敷地の一部を市の公園や、道幅拡張のためなどに提供されたりした結果が現在の姿となっています。また、神社には大木があり木の種類も多いので、その落葉対策、ごみ問題など環境問題への関心は高いように感じました。

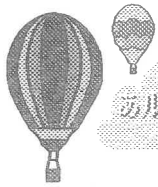
愛宕社については地域の人々が守っている所、近隣の神社に守られている所など色々でした。愛宕社は集落の北西の高台に火の神として祭られています。敷地が高台にあって、吹田でも珍しい植物の生息地となっていることもあります。こんな場面に出会うと調査者としての醍醐味を味わうことができます。

第11回 垂水コース

10月26日

あろっく吹田の散策シリーズ

〔藤白台 竹内孝之〕



「あろっく吹田」散策会はすいた再発見の楽しいウォーキングです。私は2001年3月に定年退職し、32年間住んだ第二のふるさと、わがまち吹田を知ろうと決意し、5回目の参加です。

今回も12ヶ所のスポットも訪ねる盛り沢山な企画でした。

午前9時半に江坂駅北改札口前へ集合。案内説明役の松岡氏・岡村氏をはじめ男女7名程の委員の皆様笑顔で迎えて頂きました。30名程の参加者で、幹事さんの挨拶、紹介のあと、弾んだ気分で駅の東側陸橋を渡り、大同生命ビル内へ。

1番目の「大同生命ビル」は昭和47年に竣工し江坂のシンボル、日本初のアトリウムとして誕生し、1・2階には80種2500本の樹木が覆い茂るオアシス空間。市民の安らぎと憩いの為「人と自然の共存」を願ったものです。ちょうど30年を経て緑一杯である。これがビルの中？という感じですよ。

2番目はこのビルと陸橋で繋がる平成6年に完成の「江坂公園」へ。公園の下には花と緑の相談室、江坂図書館、駐車場、駐輪場があり、公園には様々な広場、樹木、花壇、石碑が配置されている。特に「吹田クワイの池」「カリオンの時計」、東隣りの「キャットミュージックカレッジ」も印象的。吹田祭り、緑化フェアの会場でもある。平成9年、大阪府緑の景観賞最優秀賞を受賞の素晴らしい都市公園。

ここより東へ、有名ハイテク企業オフィス群を眺めながら、地元ダスキン施設の緑の垣根を横目に3番目の「豊津中学校」へ。糸田川を挟み綱引きして昭和30年開校。門前の平安時代の垂水南遺跡、やまもも、校内のポプラの大木が印象的。

4番目は垂水神社のお旅所の「幹周り2.35mの楠木明神」を経て「延命地藏尊」を拝み、「糸田川」へ。「魚の住むきれいな川にしたい！」と口々に叫んでいた。

6番目の「明誓寺」へ。幹周り2.35mの銀杏の大木は枝を切られ瀕死の状況。ここから北上し豊津駅西の電気店軒先の今時珍しい「ツバメの巣」を観察。豊津豊中線道路の北側には、天井川だった「上の川の断面」を確認し驚く。

その直ぐ東に和菓子で有名な「ばってんや」さんがある。ここの菓子を垂水神社の休憩時間に全員で美味しく頂き、納得。

ここから西に向かい、7番目は吹田市内に唯一残る公共の木造建築物「旧垂水公民館」へ。何とか保存する方法は？と思いつつ北へ進む。

悲しい伝説の「雉子騒の碑」が8番目となる。長柄橋の渡しの人柱、岩氏の娘が悲しさの余り「ものいわじ 父は長柄の橋柱 雉子も鳴かずば射られざらまし」と詠んだ。心を打たれた参加者達。

9番目は「垂水神社」へ。万葉集の「石ばしる垂水の上の早蕨の萌え出る春になりにけるかも」は当地のものとか。神主さんより神社の歴史を聞く。とにかく古い！ 境内では吹田三名水の一つ、滝と玉の井の井戸を確認。

境内を出て西へ、玉の井公園を経て、そして南に折れ、10番目の憶念寺の花塚を見ながら進む。この辺りは花の間屋が点在する。

11番目の豊津村役場跡の日露戦争の旌忠記念碑と豊一市氏センターを観て、12番目の創立128年の古い豊津第一小学校の校庭へ。昭和9年の室戸台風の悲劇、吉岡先生の児童愛は今も記念碑として残っている。二宮尊徳の像も忘れ難い。これが最後の見学。

ここを出て少し南へ歩くと、そこは朝ルックした江坂公園。この日は「花と緑のフェスティバル」開催中！

多くのイベントの中で各種NPOが出展し大盛況。協賛参加の我らのすいた市民環境会議のブース前で次回の参加を約束し解散。この行事に合わせた素晴らしい企画、「花と緑、歴史と文化、町と人」をまた新しく発見した「あろっく吹田」の1日でした。

メンバーの皆さん、またルックしましょう！
関係者の皆さん、本当に有難うございました！！



垂水神社で記念写真

あろく吹田の散策シリーズ

「あろく吹田」散策会 全11コースを終える。

平成13年3月に旧山田村コースから始まったまちなみ委員会主催の「あろく吹田」散策会は、昨年10月の垂水コースで全11コースの散策会を終えました。

11回とも天候に恵まれ、延べ287名の方に参加を戴きました。

散策会では日頃一人では入れないお寺の

本堂や教会内部など貴重なところが見学できたり、住職さん、神主さん、牧師さんなどからお話が聞け、一般参加者のみならず、案内させて頂いたまちなみ委員にとっても貴重な体験だったと皆様に感謝しています。

1月から2巡目がスタートしました。今後の予定は下記の通りです。

吉志部コース

3月1日(土) 9時30分～正午頃 小雨決行

集合 JR岸辺駅改札前 解散：佐井寺入口

吹田市都市景観賞特別賞を受賞した旧岸部東村のまちなみ・吉志部神社などを訪れます。

千里丘コース

4月5日(土) 9時30分～正午頃 小雨決行

集合 JR千里丘駅改札前 解散：モノレール宇野辺駅

桜が美しい千里丘を散策します。

参加費 会員400円、非会員500円 (両コースとも)

申込要 松岡 TEL & FAX 06-6384-8168 (3日前の水曜日中に)

[まちなみ委員・田中一子]

.....
ジャスコ南千里店との協同企画で、

三田市有馬富士公園見学のバスツアー

【目的】 三田市に2001年に開設された兵庫県立有馬富士公園は、活用を市民参画型の公園をめざしてユニークな取り組みを数々行っています。その現状を学び交流します。また、三田市のキリンビール工場にある企業設置のビオトープも見学します。

【実施日】 2003年 3月29日(土) 9:00～16:00

【行き先】 兵庫県立有馬富士公園、キリンビール工場

【集合】 吹田市役所 正門前 9時

【参加費】 2000円(中学生以上) 昼食付き

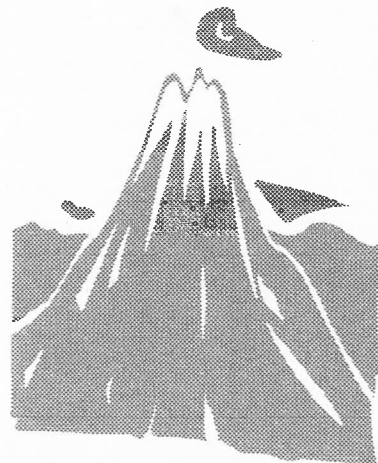
500円(小学生以下) 昼食なし

幼児は無料 昼食なし

【募集期間】 2月10日(月)～2月22日(土)

【申込先】 佐藤和子まで ☎&FAX 06-6387-2096

【人数】 本会募集先着25名(ジャスコが別に25名募集)



本会は関西電力の広報活動に便乗して11月30日に30人が美浜原子力発電所を見学しました。原子力発電の問題点を16日に予習しました。予習に21人が出席し、講師は反原発新聞の世話人をしている末田一秀さんでした。見学後の感想を列挙しました。

環境団体が原子力発電所を見学

その感想は

- ・仕組みがよくわかった。核燃料の管理はどうなっているのか。使用済燃料の処理は？
- ・大変良い勉強になりました。賛成、反対にしても知ることが大切です。これからも時々行って下さい。
- ・初めての学習会参加でしたが大変有意義な講座でございました。原子力発電の大切さを身にしみて感じました。
- ・安全面で懸命にされているのはわかるが心配はつきない。
- ・なかなか見学の機会がないので有意義でした。
- ・さすがに企業はさりげなくしつこくPRするね。
- ・私としては反対ではない。ものすごいエネルギーを平和利用すべきであると考ええる。もちろん日本の技術で完全無欠的な原発の開発放射性廃棄物の今の方法ではない処理の技術的完成のもとにはあるが（絶対にできないことはないと考える）私は上記にありますように原発に反対の立場の見学とと思っていましたが関電の方はそう思っていない、実際に話してみたので事実である。何のための見学会か？
- 主旨は明確に主張しておくべきと考えます。本当に素晴らしい会になってきたと驚いております。当初よりその可能性を感じて会費のみであるが賛加（参加）させて頂いております。表彰ものです。がんばって下さい。
- ・水力火力にも限りがあり原子力もしかたがないと思うようになった。みながもう少し考えて電気を使えばよい。
- ・安い会費で連れていってもらって良かった。
- ・テレビなどで原子力発電関係のニュースも良く見るがどうしても忘れがちになるが、今回のように現地見学をするとまた説明を聞くと色々な角度から幅広く見れるので大変良かった様に思います。電力の必要は当然ですが、地元の関係もあって考えさせられます。
- ・大体予想していたとおりの展開。関電側の説明は聞いて良かった。
- ・おもしろかった。話がよくわかった。
- ・予習に出て気がついたのですが、原発の問題を身近なものとして考える場として環境NGOや消費者団体がこのような取り組みをもっとやっていけば世論形成にもなるかもしれませんね。大阪府が関電から電気を買わないように自分の住む自治体のエネルギーを消費者として選択できればよいのにと 생각합니다。今回の市民会議のこの原子力発電の取り組みは町づくりの勉強会とも言えると思います。
- ・賛成、反対立場を明確にした上で原発見学をされたのはよかったです。市民環境会議として原発問題に取り組む一形態になったのではないのでしょうか。
- ・良い勉強をさせて頂きました。
- ・良かった。知らないでいるより、見学して、自分の判断ができたことに満足しています。
- ・見学して良かったし、知らないより知って、これからも電気に関心を持っていきたい。

[中村小夜子・事務局長]

原子力発電所を見学して帰路、日頃の活動についてもご意見を聞きました。

- ・もっとPRして下さい。
- ・これからもこんな機会を作して下さい。
- ・地元を歩きたくて講読会員になりました。1月より2巡目となる。予定を楽しみにしています。
- ・いつも目的を持っての見学会が楽しみです。
- ・多忙なスケジュールの中コミュニケーションも大切かな？
- ・吹田市民環境会議「明るくサワヤカ」にガンバレ！ 私もそれなりにガンバル

ホームページについても聞きました。

- ・いつも見ている 3 (コメント:とてもたのしい。ためになる)
- ・時々見る 2
- ・見たことがない 11 (コメント:すごい事でも書いてんの?
見てお得情報があるかい?)
- ・知らなかった 4
(ホームページのアドレスは表紙の題字の下に記してあります)

七草予備調査結果と今後の予定

平 軍二 (生き物委員会)

「春の七草・秋の七草」について予備調査を兼ねた観察会を実施中であるが、10月14日実施した秋の七草探し第2弾「千里北公園(苗圃)」での調査結果は、以下の通りであった。

- ・参加者 13人
- ・調査箇所 北千里駅→千里北公園苗圃(水遠池西側→北側) 藤白台住宅地北側を北公園入口迄
- ・結果

在来種草木	79種	} うち開花中のもの53種
帰化種草木	26種	
計	105種	
- ・特記事項
 - ①秋の七草該当の植物 ススキ・クズ・キキョウの3種
(+植栽されたハギ)
 - ② 吹田市では貴重種と思われる在来植物
ツリガネニンジン・ワレモコウの群生、キキョウ
ヒヨドリバナ キカラスウリの実など

スイタクワイを植えて三年目

ビオトープ委員会 小田信子

私たちは、昔の吹田の田んぼにあった植物や昆虫などの生きものを復活させたいと思って3年前から活動しています。

場所は、釈迦が池の東・岸部北5丁目にある田んぼです。

最初の年に、稲作と同時に「昔、吹田の田んぼには普通にあった」といわれるスイタクワイを植えました。スイタクワイ保存会の北村会長が育てていた苗をわけていただいたのでした。

10m×10m ほどの面積でしたが吹田市内でスイタクワイを植えている最大面積の場になりました。

この年は全く試験的気分でしたので、咲いた白いかわいい花を愛で、雄花と雌花があるとか、野草のオモダカと葉や花の大きさが違うだけで同じ形だと言って喜んでいました。また、掘ったクワイのうち200個くらいを1個ずつ計測しました。平均して直径3cm程で重さは約8g。それぞれが持ち帰って食べてみたりしました。

二年目はどんな食べ方があるのか料理屋さんに頼んで、忘年会を兼ねた試食会をしました。鍋物の「つみれ」に入ったクワイ、クワイが真ん中におさまって芽が飛び出したコロケ、姿のままの唐揚げと楽しく美味しいスイタクワイ料理が出てきました。

この年は吹田市の体験農園でもスイタクワイが植えられました。小さいが柔くて美味しいと言われるスイタクワイですがこの体験農園では大きなものが目立ちました。肥料がよかったのでしょうか。でもスイタクワイ保存会の方は「小さい方がスイタクワイらしく、しかも美味しい」とおっしゃいます。



三年目、吹田市から「農協に出して売ってもらうので協力してほしい」との依頼がありました。暮れの忙しいさなかに掘って、洗って協力しました。

吹田市としては竹とスイタクワイを「吹田の特産物」として復活させたいとの思いがあるようです。(農地がほとんどなくなった吹田で…)

しかし、スイタクワイを育てることに係わって判ったことですが、スイタクワイを農家が作らなくなったのは当然と言えば当然の流れとされます。

理由は

- 1.寒い冬の最中の重労働である。
 - 2.収穫量はあまり多くはなく、しかも1個1個が小さい。
 - 3.機械化農業になじまない。
- そんな中でどこまで農作物として普及できるか個人的には少々しんどいことだと思っています。

そんなものを何故すいた市民環境会議が植えているのか…。最初に書いたように吹田に昔からあった田んぼの植物であること。スイタクワイは学名に「すいた」が付いたたった一つの植物であり大切にしたいこと。そして、それが食べ物として扱われてきたものであれば、食べながら残してゆきたいと思っています。

しかも楽しみながら。

寒いのが少々難点ですが、泥田の中を手探りで探していて、スイタクワイが手に触れたときの嬉しさは何ともいえないものです。昨年に引き続き今回も収穫祭に参加してくれた会員の子供さんが吹田ケーブルの取材に「楽しい!」と言ってくれました。スイタクワイ作りにみなさんも参加しませんか?

いいでしょこのまち

第2回吹田市都市景観賞と 文化の見えるまちづくり

まちなみ委員 松岡要三

昨年の11月19日(火)に、第2回吹田市都市景観賞の表彰式がメイシアターで行われました。

この賞は、地域の特性を生かし、優れた都市景観を守り、創り、育てている作品や活動が表彰されています。

今回作品として、アサヒビールの緑とサイン(JR駅側の緑化と広告)、ダスキン誠心館(江坂町)、関西大学正門(秀麗橋)、大林組花壇寮(山手町)が、活動として、旧庄屋屋敷保存活用会(内本町・旧西尾邸)と千里山のみどりの協定(千里山西)が表彰されました。

また特別賞として、旧岸部東村のまちなみと内本町2丁目の旧家のまちなみ(亘邸・旧西尾邸)が選定されました。

選定理由などについては、市報すいた(2002.11.1号)で紹介されていますので、ここでは省略しますが、ほとんどが吹田市観光マップ「あろっく吹田」で紹介されている吹田の古い歴史や文化を語るスポットです。今回の表彰の大きな特徴のように思われます。

景観賞表彰式の翌日には、すいたシニア環境大学の開校式があり、その中の講演では「魅力のあるまちづくり——文化と環境の接点——」が語られました。

また、その翌日の21日(木)、22日(金)には、第9回全国文化の見えるまちづくり政策研究フォーラムが、遠くは北海道、沖縄から約200名の行政マン・研究者がメイシアターに集まり、7分科会に分かれて、文化のまちづくりについて熱心な討論がされました。

優れた景観を形成している建物や活動の背景には、人々の想いや文化的側面が必ず存在します。今回の表彰を機会に、「あろっく吹田」を持って、表彰されたスポットを訪ね、吹田の歴史や文化を感じとり、吹田のまちの将来を考えて見ませんか。

アサヒビールが前回に続いて表彰されました。明治22年(1889年)有限会社大阪麦酒会社として設立され、アサヒビールの発祥の地として100年以上の歴史を持つ工場です。時代の変化を乗り越え、アサヒビールの看板工場であり続けていることは特筆に価することと思います。

ダスキンも前回のミスタードーナツカレッジに引き続いて2回目の受賞です。「喜びの種をま

こう 祈りの経営」と社会奉仕を経営の理念にかかげ、大きく発展した会社で、誠心館は旧庄屋屋敷を再生活用した研修寮です。

旧庄屋屋敷西尾邸は、雑誌「アサヒグラフ」(1997.2.21号)に21頁もの特集で、「仙洞御料庄屋屋敷 数寄ぶりを伝える西尾邸」と紹介されています。

千里山西の住宅は大正9年(1920年)に、山岡順太郎大阪商工会議所会頭、林大阪府知事、池上大阪市長が発起人となり、商工会議所の有志が株主となって設立された大阪住宅経営株式会社により、イギリスの田園都市・レッチワースをモデルに開発された住宅地です。

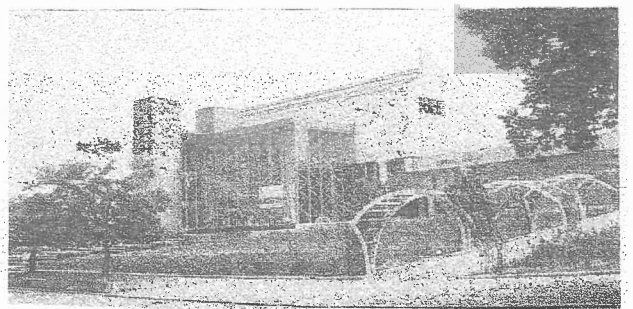
関西大学も千里山住宅開発と同時代の、大正11年に千里山学舎が建設され大学に昇格しました。大阪住宅経営株式会社の社長を努めた山岡順太郎は、関西大学の学長兼総理事も努め、「学の実化」を教育理念に提唱し、大学の発展に大きく貢献しました。

吹田市は企業の社宅や寮、研修所、グラウンドなどの多いまちですが、社会の変化、とりわけバブル経済の崩壊により、それらが次々売却されマンションに生まれ変わっています。

その様な中で再生された大林組花壇寮は注目されて良いと思います。地域に閉ざされた寮でなく、建築を学ぶ学生や、海外からの留学生にも開放されると、さらに素晴らしいことと思います。

さて、5年後、10年後の吹田のまちはどうなっているのでしょうか。千里丘の日生団地跡地が注目されていますが、片山のJR社宅、円山町の公務員宿舎、その他の企業社宅などが注目されます。千里山月が丘の大阪証券グラウンドが大阪学院大学のグラウンドになった事例もあります。

万博のEXPOタワーが解体されています。国立国際美術館、万博ホールも美術館の中の島移転後、解体予定と新聞で報じられています。貴重な万博の遺産です。解体はいつでもできます。市民・行政・専門家が知恵を集めて活用を考えようではありませんか。



万博公園にある国立国際美術館

報告：6月1日オープン

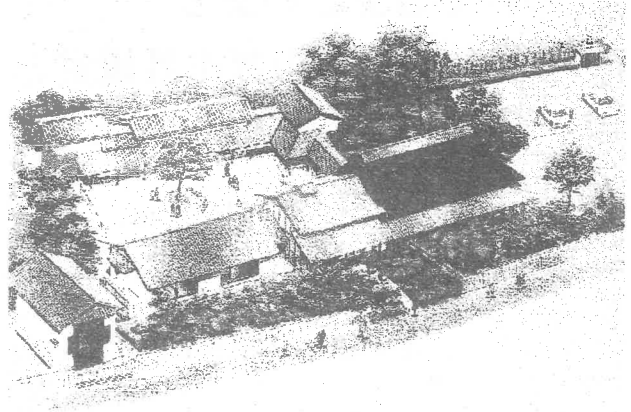
「南高浜歴史民家」

施設の名称は「吹田歴史文化まちづくりセンター」

運営団体は「吹田歴史文化まちづくり協会」

南高浜歴史民家運営組織準備委員会 委員
すいた市民環境会議 まちなみ委員会

岡村昇二



・市民中心に活用を検討

平成12年に市に寄贈された、南高浜の庄屋屋敷を市民が歴史と文化にかかわるまちづくりの活動に活用するために、市民が中心となって、活用方法、運営組織のありかたを約3年にわたり検討してきました。私は、公募委員として初年度から検討の委員会に参加してきたので、計画が具体化してきた今、現状と経過を報告し、これからの運営に皆さんの協力をお願いしたいと思います。

・寄贈された土地・建物とは

所在地は、吹田市南高浜町6番21号です。JR吹田駅の南方、高浜神社より更に200m南で、旧市役所跡・済生会病院跡地に建った高層マンションの南隣です。

土地面積は、後に市が購入した800㎡を加えて2900㎡、建物面積は600㎡です。母屋は江戸後期の建築で一部茅葺き、他に居宅、土蔵があります。邸内にはクスノキの大木などが茂り、塀に囲まれた屋敷です。

・活用方法は

- ① 蔵：郷土歴史の資料展示室、ギャラリー、音楽演奏
- ② 母屋：落語・漫才、邦楽の演奏、茶華道の発表の場、歴史民家見学・体験の場
- ③ 中庭：彫刻展、盆栽展など
- ④ 東の広場：フリーマーケットの会場、座敷を舞台とした場合の観覧席
- ④ 居宅離れ：事務所、講座もできる会議室、歴史・文化のまちづくり活動団体の場
- ⑤ 展示庫：地車の展示

各種催しは、協会が主催するものと、「貸し会場」として外部に貸し出す場合があります。

・運営の委託を受ける「吹田歴史文化まちづくり協会」を設立へ

この施設の正式名は「吹田歴史文化まちづくりセンター」ですが、センター完成後に愛称を公募する予定です。

施設管理と運営は、「吹田歴史文化まちづくり協会」を今回設立し、市から運営の委託を受けます。この協会は、一般に呼びかけて会員を募り、会員の会費と自主的な参加・参画により運営される、市民による自主的な団体です。将来NPO法人を目指します。

・スケジュール

1月11日(土)	協会発起人会
2月8日(土)	協会設立総会
3月中旬	建物整備工事完了
4月1日(火)	事務所現地開設
5月18日(日)	協会第一回総会
5月31日(土)	オープン記念行事
6月以降	各種イベント開催

☆ まもなく協会の会員募集が始まる

設立総会(2月8日)以後、会員募集が始まります。大勢の方が会員になって、運営の手伝いや見物に参加し、市民運営を盛り立ててください。

会員種別	
正会員(議決権がある)	年会費 3,000円
賛助会員(個人)	年一口 1,000円
賛助会員(法人)	年一口 10,000円
会員特典	
(1)	協会主催行事に優先入場と入場料割引
(2)	会報を受ける

センターが完成するまで事務局は、

市役所市民文化部文化のまちづくり室 気付
「吹田歴史文化まちづくり協会」

法人会員紹介

こころの掛橋をめざして

小儀動物病院

吹田第三小学校の近く、高城町にある小儀動物病院は、すいた市民環境会議の法人正会員である。

院長の小儀昇さんは、“理事・小田信子さんを通じて本会の存在を知り、自然保護の観点から入会させていただきました”と言われる。盲導犬となる犬を育て、責任を果たして引退したのちの面倒も見ている小田さんの主治医であるとともに、病院の待合室には、わが環境会議が発行した、「すいたの古木・大木マップ」をはじめ、街路樹、ため池、ツバメの巣などのマップが貼られ、「あろく吹田」など、本会作製の刊行物も、来院した人たちの目にふれるようにとの心くばりで、本棚に置いてくださっている。

「動物の」病院と言っても、飼い主に連れられての来院となり、「人間を」通じての診察である。

その点、小儀院長は人あたりがよく、診察時間内に診きれないワンちゃんたちの声が午後10時近くまで続くこともある。

“業務多忙のため(環境会議の活動に)参加できる可能性が低いです”と言われるのが残念だ。

「連れられてくる、ペットとしての動物たちへの配慮について」と、お尋ねしたところ、

“まず、ペットというとらえかたに疑問を感じています。コンパニオンアニマルという言葉が使われ始めてから久しくなります。心の友・家族の一員で、知識も感情もあるひとつの生命の持ち主と考えることがスタートラインだと考えています。

ものいえぬ動物たちは、生まれてから死ぬまで、人のような言葉を使わずに生きていかねばなりません。それゆえ言葉を使わずに相手の心の裏側まで読み取る能力は、人よりすぐれていると考えると、彼等の心が見えてくると思うのです。

地球上の長い歴史の中で、人と生活を共にするようになった動物たちにも、権利を保証してやれるのは、万物の霊長といわれる人間のみです。

私は獣医師として動物たちの体と心の痛みの訴えを理解し、飼い主さんに伝えるこころの掛橋となれることを目指しています”

「ペット」という感覚で、人間の都合、気持ち主体で接して、それぞれの動物に合わせた対応をされなくても、動物は抗議できない。満足できない生活環境におかれても、そこで生きていくしかない。

犬を散歩させるのに、自分は自転車に乗って走る人がいる。犬はそれと同じペースで走っているけれど、しんどくはないのかな？

心臓にとっても負担が掛かると聞いた事がある……と思いながら見ることはあっても、犬はどんな気持ちで引っ張られているんだろうとまでは考えなかった。

小儀さんのお考えを知って、犬の心にまで考えを及ぼさないといけないと思った。

「コンパニオンアニマル」、犬も猫も小鳥もカメも、小さな小さな熱帯魚もみんな私たちの仲間。仲間と思えば、盲導犬や介助犬が入れない場所が多いのは不当だと気づく。動物たちの心の内に心を配って、活動しやすく、憩いやすい環境を整えてやるのが、人間の努めなのではないだろうか？

会報委員 岩溪 恭子

小田会長が公述 提案は『基本協定の遵守』を理由に却下された

吹田貨物ターミナル駅(仮称)建設事業は、吹田市環境影響評価条例が定める手続きが行なわれています。手続きは年末現在、公聴会の開催まで進みました。

本会は会員からの意見を集約して小田忠文会長が11月29日の公聴会で意見を述べました。公述制限時間は5分でした。公述の要旨は下記のとおりです。

なお環境影響評価準備書に対する本会の意見書は第25号(2002年5月)に掲載しました。

公聴会の公述要旨

《貨物専用道路について4つの提案》のうちA B案である『貨物専用道路の出入口を城東貨物線の西側に設けてほしい』という提案に対しては、その設置が困難であることが明解な論旨で説明されており、納得できました。しかし城東貨物線の西側に1車線のみを設けるC～E案については『基本協定で自動車道の連行経路は、新御堂筋から庄内新庄線、十三高槻線を経由すると定めておりこれを遵守する』と回答されています。この回答はA B案に対する見解と比較するまでもなく、明快な論旨ではありません。

基本協定を作成した会議で今般我々が提案したC～E案は検討されたのでしょうか? 検討の結果、基本協定ができたのであれば納得します。その場合、C～E案を否決した理由やその際の議事録を開示して下さい。

C～E案は、庄内新庄線や十三高槻線の通行量が半減する案です。この地域の住民

への環境影響が半減する案です。さらにトンネルの幅が半減することにより工事費も軽減される案でもあるのです。

基本協定を作成した会議でC～E案が検討されていなかったとすれば、これを却下する根拠として『基本協定の遵守』というのは理不尽です。当時の会議では検討されていない、より良い手段がみつければ、古い規約、つまり基本協定は見直されるべきであり、却下する判断基準にはならないと考えます。

以上のように我々の提案を『基本協定を遵守する』の一言で却下されることには納得できません。準備書に示された鉄建公団側の貨物専用道路案の方が、我々の提示したC～E案よりも環境への負荷が少ないのか多いのかで判断するべきであります。勿論コスト意義も必要でしょうが。

[小田・会長]

解説

手続きの流れは概してつぎのとおりです。

(1)事業者作成の実施計画書の縦覧

→市民意見書提出→市長意見書の提出

→事業者が調査・予測・評価

(2)事業者作成の環境影響評価準備書の縦覧

→事業者による説明会

→市民意見書提出(1万1000通)

(3)事業者作成の見解書の縦覧→公聴会の開催

(4)準備書に対する市長意見書の提出

(5)事業者作成の環境影響評価書の縦覧

→市民意見書提出→市長意見書の提出

(6)事業者作成の報告書の縦覧

(7)着工

(右頁下へつづく)

最近の主な活動報告

- 10月14日 七草予備調査 参加者13名 …… 7頁参照
10月30日 受託事業「吹田市の鎮守の森調査」の打ち合わせ、担当は生き物委員会 …… 3頁参照
11月9～10日 万博自然文化園で開催された大阪府環境フェアにブース参加
11月16日 原子力発電所勉強会 21名出席 …… 6頁参照
11月23日 ヒメボタル棲息地の清掃
11月24日 環境講座「見てみよう 都市の中の里山」 参加者22名
11月29日 家庭の環境マネジメント説明会 3名出席
11月29日 梅田貨物駅移転に関する環境影響評価条例見解書に対する公聴会で小田会長が
 本会としての意見を公述 ……12頁参照
11月30日 美浜原子力発電所を見学 30名参加 …… 6頁参照
12月 1日 環境講座「歩こう 旧吹田村はこんなまち」 参加者21名
12月 7日 メダカの田んぼで吹田慈姑の収穫祭 16名参加 …… 8頁参照
12月15日 環境講座「やってみよう 家族でできる省エネ」 参加者16名
12月15日 大阪産業創造館で開催された地球温暖化防止フォーラムに小田会長がパネリス
 トとして出席
12月16日 メダカの田んぼで収穫された吹田慈姑^{すいたくわい}6kgを山田農協に出荷。 …… 8頁参照
1月19日 環境講座「作ってみよう エコクッキング」 参加者26名

生活環境委員会ニュース

★働イオン環境財団から、昨年度につづき再び助成（50万円）を受けることになりました。これは「家庭の環境マネジメント」活動に活用されます。環境マネジメントの参加者はこの助成により、参加費用負担（記録ノート代、監査費用など2000円）がいりません。ひきつづき参加希望者を募集しています。参加希望の方は下記（喜田）までお問い合わせください。

★「家庭の環境マネジメント」の監査担当の「家庭の環境管理・監査人協会」が下記のとおり~~原発学習会~~~~見学会~~を開催します。すいた市民環境会議の見学会に参加できなかった方はぜひこの機会にご参加ください。

☆事前学習会：2月10日 10時～12時 講師 末田一秀さん 参加費 500円

大阪NPOプラザ JR環状線・阪神電車「野田駅」から徒歩約10分

☆美浜原子力発電所見学：関西電力提供バス 3月4日 午前8時半出発（西梅田） 午後7時帰着予定
参加費2000円（昼食費込み） 集合場所など詳細は申し込み後に連絡します

見学会問い合わせ・申し込み：2月9日までに、先着35名 監査人協会 門田 Fax072-293-0634まで

生活環境委員会 喜田久美子Tel 06-6330-0305 Fax 06-6330-0376

（左頁からつづく）

手続きは(5)の評価書縦覧まで粛々と進みますが、評価書に対する市長の評価意見書の作成は理由があればしなくてもよいことになっています。つまり、ここで手続きが止まります(脚注1)。し

かし、条例はその場合に事業者に強行着工の選択肢を与えています(脚注2)。この条例で合意に至らない場合は、たとえば基本協定を再協議するか交渉の場を裁判所に移すとか、一般のニュースで見られる紛糾状態になるかもしれません。

（脚注1）環境影響評価条例第19条第4項 市長は、第1項の規定にかかわらず、評価意見書を作成しないときは、速やかに、事業者はその旨を通知するものとする。

（脚注2）同第21条 事業者は、前条第2項の告示の日（第19条第4項の規定による通知を受けたときは、その日）以後でなければ、対象事業に係る工事に着手してはならない。 [古谷・編集長]

2002年度 新入会員

2003年1月10日現在の会員数

正会員(個人140人・団体0・法人4社) 購読会員(118人) 賛助会員(0人)

新入会員はつぎの方々です。 2002年10月26日～2003年1月10日(敬称略)

正会員 安原美智子、山本淑子、谷口英子、伊藤みどり、鳩間傳一、中本美智子、
尾浦美久子、坪内晃、田畑寛子、香川万里子

購読会員 前田恭原、森田幸子、松浦一志、松浦登美枝

★ 封筒の宛先ラベルの下段に入金済みの年度を記入していますのでご確認ください。

表示例：(02～04年度)は2004年度分まで入金済みです。

★ 2002年度会費未納の方に郵便局の振込用紙を同封しました。入金をお願いします。

会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。

郵便振込みの場合は、入金確認が若干遅れる場合があります。

★ 会費についてのお問合わせ、会員の種類変更などは

会計 喜田 TEL 06-6330-0305(夜間のみ)、FAX 06-6330-0376(終日受信)まで

★ 今回から新入会員のお名前だけを掲載します。

ご寄付をいただいた方々 2002年10月26日～2003年1月10日(敬称略)

7,380円(匿名)

ジャスコ南千里店で毎月11日のイエロー・レシートを店の正面出入口で本会の箱に投入すればその売上額の1%が本会に寄付されます。前号に記載した5,449円はその寄付金です。

【訂正】

前号の5頁「千里丘のマンションめぐり」で、右の11～12行をつぎのように訂正します。

「また、モデルルームは、別の場所に建てるのではなく、実際の建物の一室を利用すべきであるとの姿勢で実行している会社のあること、……」

本号は2月10日までに配達を完了する予定です。遅配された場合は古谷(☎06-6387-2139)まで連絡をいただくようお願いいたします。前号27号は11月13日頃に配達しましたが、届いてない方も連絡をお願いします。

編集後記 本誌は発行当初からA3サイズである。過去わが国では一回り小さいB4サイズが標準であったので、A3印刷機がめったになかった。最近あちこちの公的施設にA3印刷機が備え付けられて、たいへん便利になってきた。次は2つに折る機械がほしい。学校にはこの折り機が普及している。

原稿を期限なしで募集しています。年4回の発行です。身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する趣旨の内容であれば問いません。文字数の標準は800文字以下です。